3　『美崎寄り合い』　会議録

【件名】　大川活用プロジェクト４月定例会議（美崎寄り合い）

1　日　時　平成 24 年４月 24 日(火)　19 時 00 分～21 時 00 分
2　場　所　美崎自治会会館
3　参加者　16 名
(1)美崎自治会　伊藤自治会長、高野氏、永井氏、馬渕氏、山田氏、戸田氏、寺田氏、山田氏、苗村氏、林氏、田中氏
(2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
(3) 立命館守山中学校・高等学校ＳＳＨ推進機構　八木氏
(4) 守山市
・環境生活部　環境政策課　　筈井参事
・政策調整部　みらい政策課　木村課長、髙田

4　趣　旨
大川活用プロジェクトにおける取り組みの着実な推進のため、毎月４火曜日に関係者による定例会議「美崎寄り合い」を開催することとなり、第１回目の会議を開催した。
平成 24 年度は、大川の将来イメージ図「未来予想図」を作成。平成 25 年度には策定する計画に落とし込んでいく。

5　概　要
(1) 伊藤自治会長あいさつ
・平成 22 年度から取り組みを開始し、世間の関心が高まってきた。
・H24 年度はH25 年度計画策定に向けた準備の年であり、大事な１年である。
・活動等の実績を積みかねるなかで、賛同者を増やしていきたい。
・毎月第４火曜日に定例会議「美崎寄り合い」を開催する。
・今年度の取り組みは、協議員を中心に進める。また、「大川委員会」を立ち上げて、議論をしていく。
(2) 協議結果
○自治会長より取り組み計画（案）について、別添資料に基づき説明
○植生浄化事業について
・出来る限り早い時期から取り組む。
・今年度（１年目）は、育てやすい、また管理しやすいものを植える。あまり負担がかからないものとする。
・イカダは５つ程度を考えている。ホテイアオイをメイン（３～４）とし、残りは他のもの。花を咲かせるものが良い。
・中村先生からのアドバイスを参考に、植えるものを決定する。外来種等のリスクを事前に確認のうえ、きちんと管理していくこととする。
・栄養分（窒素、リン）の吸収が良いので、空心菜（中華料理に使う）がおもしろい。夏に花（アサガオに似ている）も咲く。
・定期的に水質調査を行い、浄化作用の効果を検証する。
○その他意見等
・大川に琵琶湖から魚を入れてはどうか。食物連鎖が活発になり水質浄化に繋がる。
・過去に自治会で大川を今後どうしたいか、絵を描いて、広報に掲載している。残

っていると思うので確認しておく。

・先ず、大川全体をどうしたいのか（短期、中期、長期）を議論し、その後個別の事業を出来るところから実施するのが良い。

・川に流れがないことが水質悪化の原因である。たとえば、風車を回して酸素を送るなどのアイデアが必要ではないか。

・琵琶湖の水位を調整するため、洗堰の操作をしているが、近年きちんと操作がされるようになって、更に水が動かなくなった

(3)市からの連絡事項

・今年度も水草除去を美崎自治会に委託（建設管理課）

・大川の将来像についてのイメージ共有のため、5/26に先進地視察を実施。行き先は東近江市の「河辺いきものの森」を予定。市のバス（25人乗り）を手配済。

・法竜川から地球市民の森経由での導水について、都市経済部局で検討中。勾配はとれそうな感じ。⇒水質的はいかがなものか？（農業排水、生活雑排水）

(4)次回内容

・安藤氏からＰＲＡ（参加型農村調査法）の手法を紹介

・大きな図面（大川）に将来の姿をみんなで書き込んでいく

※準備物（図面、マジック、付箋）

(5)次回までに実施しておくこと

・植生浄化事業に活用するイカダづくり・・・自治会

・夏原グラントへの助成申請手続き・・・市

・平成24年度版　「里川里湖のまちづくり計画書」の作成・・・市

・水資源機構や県への状況報告。特に水資源機構は大川の取り組みに関心が高い。

【件名】　大川活用プロジェクト５月定例会議『美崎寄り合い』

１　日　時　平成 24 年５月 22 日(火)　19 時 00 分～21 時 00 分
２　場　所　美崎自治会会館
３　参加者　　15 名
(1)美崎自治会　伊藤自治会長、高野氏、永井氏、馬渕氏、山田(美)氏、戸田氏、山田(章)氏、永尾氏、苗村氏、
(2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
(3) 立命館守山中学校・高等学校ＳＳＨ推進機構　八木氏
(4) 守山市
・都市経済部　建設管理課　　井口係長、山元主事
・政策調整部　みらい政策課　木村課長、髙田

４　趣　旨
大川活用プロジェクトにおける取り組みの着実な推進のため、平成 24 年度から毎月４火曜日に関係者による定例会議「美崎寄り合い」を開催することとし、第２回目の会議を開催した。当会議での議論をもとに、今年度中に、大川の将来イメージ図「未来予想図」を作成。平成 25 年度には策定する計画に落とし込んでいく。

５　概　要
(1) 伊藤自治会長あいさつ（本日の確認事項）
・H24 年度版『里川里湖のまちづくり実施計画書』（案）の確認
・５月 26 日（土）視察研修を含め、直近の事業スケジュールの確認
・フリートーク
(2) 協議結果
○H24 年度版『里川里湖のまちづくり実施計画書』（案）について
※市みらい政策課から概略を説明・・・別添資料
・内容は概ねＯＫである。ただ、啓発活動の中心となる「大川フォーラム」をもう少し前面に出して欲しい。（見せ方の部分）
○視察研修（5/26　河辺いきものの森）について
※市みらい政策課から概略を説明・・・別添資料
・市バス（保険加入）の関係で参加者を報告いただきたい（市）
・研修後、参加者が印象に残ったことをコメント出来るように、当日付箋紙等を市が用意する。
○水草の定期除去について
・現在大川にホテイアオイがない。（気候の関係か？赤野井湾等どこにもない！）
・こういった状態にあるため、実施時期については、６月中旬を予定していたが、現段階では水草がないために未定。今後、水草の生育状況を見て、実施時期を決定する。
・自治会としては、水草除去３回（市委託）としていたのを、２回に減らし、１回分を河川敷の整備に変更してもらいたい。⇒検討中
○植生浄化事業について
・先日、イカダ（13 台）が完成した。

・ホテイアオイを中心に考えていたが、現在ホテイアオイがどこにもないため、他の植物を検討している。専門家（中村先生）のアドバイス等をいただきながら、決めたい。
・ホテイアオイは土がいらないのがメリット。土が必要な植物は好ましくない。水質浄化を目的に実施するものであり、新たな栄養塩を大川に持ち込むことになってしまうので、避けたい。
・やはりそういう点からも、空心菜をつかうべき。
⇒イカダは13台あるので、何台かは空心菜をやってみればよい。
・立命館の生徒が大変興味をもっている、生徒もこの取り組みに参加させて欲しい。
⇒ぜひ参加を！
・実施後、定期的に観察等を行い、記録をしっかりと残す必要がある。

○当面のスケジュール
・夏原グラント第２次審査（プレゼン）　６/10（日）
※5/25の１次審査（書類審査）を通過すれば
・外来魚つり大会　７/15(日)
・自然観察会（中村先生の指導）　７/21(土)　午前
・河川敷の清掃　７/22（日）午前
・子どもの環境学習　８/25（土）午前
・大川のつどい　11/4（日）終日

○その他
【在来魚の放流の実施について】
・目的は水質浄化。ナマズはどうか？
・昔の大川にいた魚は？
⇒オイカワ、ウグイ、カマツカ等。川に流れがあった（清流のイメージ）

(4)次回内容　※第２回で出来なかったため
・安藤氏からＰＲＡ（参加型農村調査法）の手法を紹介
・大きな図面（大川）に将来の姿をみんなで書き込んでいく
※準備物（図面、マジック、付箋）

(5)次回までに実施しておくこと
・野洲川通水前（昭和50年代）の図面が欲しい。管理用道路が出来る前の河口部を確認したい。⇒市で確認

【件名】　大川活用プロジェクト６月定例会議『美崎寄り合い』

１　日　時　平成 24 年６月 26 日(火)　19 時 00 分～21 時 00 分
２　場　所　美崎自治会会館
３　参加者　　18 名
(1)美崎自治会　伊藤自治会長、高野氏、永井氏、馬渕氏、山田(美)氏、戸田氏、山田(章)氏、永尾氏、苗村氏、北尾氏、加藤氏、林(重)氏、林(清)氏
(2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
(3) 立命館守山中学校・高等学校ＳＳＨ推進機構　八木氏
(4) 守山市
・環境生活部（環境政策課等担当）　原田次長
・都市経済部　建設管理課　　井口係長
・政策調整部　みらい政策課　木村課長、髙田
４　概　要
(1) 伊藤自治会長あいさつ（本日の確認事項）
・各団体等において現在の取組の進捗および今後の予定について確認
【美崎自治会関係】
・6/2　大川委員会が発足
・6/10 植生浄化事業のためのイカダの設置作業
空芯菜が大変よく育っている。
ホテイアオイはあまり育っていない。(寒さのせい？)
当初、花が咲くタイミングでマスコミ等へのＰＲを検討していたが、もう少し様子を見たい。
立命館守山中学校・高等学校用のイカダ（３、４基）は手をつけずに残している。
・自然観察会は、講師（中村先生）との日程調整中⇒実施日時は未定。
・7/22　10：00～　大川の清掃　※自治会一斉清掃終了後
・写真募集を開始。現在 40～50 枚程度集まった。
・7/14　8：00～　水草除去（検討中）　ヒシが出来てきている。
・別添資料「年表でみる美崎の歴史」の紹介
【立命館関係】
・埼玉県でＮＰＯ法人とよあしはらが行う「とよあしはらプロジェクト」を紹介
※別添資料参照
【市関係】
・平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」　１次審査で落選
・大川への導水の検討については、市長よりしっかり議論するよう指示あり。

(2)「大川の良いところ・思い出探し」　※安藤氏指導のもとＰＲＡ（参加型農村調査法）
・意見の集計表・・・別添のとおり
【まとめ】
・場所は、「大川と新川の分かれ目」、「大川の河口」、「六番川付近」あたりが多い。
・時期は、生活の中で、川と具体的に関わりがあった時。
・新住民は、昔の大川を知らないが、川で活動することが印象に残っている。川を単

に眺めているのではなく、具体的に関わりを持ったことが印象に残っている。
　⇒川と積極的に関わりがもてるようなしかけをつくる。
・今後のテーマは「きれいな水、澄んだ水」、「魚」、「関わり」である。

【件名】　大川活用プロジェクト７月定例会議『美崎寄り合い』

１　日　時　平成 24 年７月 24 日(火)　19 時 00 分～21 時 00 分
２　場　所　美崎自治会会館
３　参加者　　計 18 名
(1)美崎自治会　伊藤自治会長、高野氏、永井氏、苗村氏、馬渕氏、林(清)氏、永尾氏、戸田氏、山田(美)氏、山田(章)氏、加藤氏、山田(好)氏、寺田氏、田中氏
(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
(3)立命館守山中学校・高等学校ＳＳＨ推進機構　八木氏
(4)守山市
・環境生活部環境政策課　筈井課長補佐
・政策調整部みらい政策課　髙田
４　概　要
(1)伊藤自治会長あいさつ（本日の確認事項）
・７/22　大川水草除去作業を実施　約 60 名参加
水草除去によって河川の環境改善が進んでいることを、住民に目に見えて実感いただくことができたことは、大きな収穫であった。
・各団体等において現在の取組の進捗および今後の予定について確認
【美崎自治会関係】
・8/25(土)こどもの環境学習会　※詳細は未定。立命館守山の生徒がこどもを指導
・８月寄り合いを 8/28(火)⇒8/24(金)に変更
【立命館関係】
・7/27(金)　生徒による河川（上流・中流・下流）の調査活動（水質、プランクトン、底泥等）

(2)大川の将来についてワークショップ　※進行：安藤氏
・意見の集計表・・・別添のとおり
※出していただいた意見について、ひとつひとつ議論
〔集計表の分析結果〕
○上流部分についての意見が最も多かった。⇒住民の関心が非常に高い。
○上流部分以外は同程度。
○上流部分は、ほとんど体験に基づくものである。また、現代のものがなく過去のものが多い。
○下流・河口部分や全域は、現代のものが多く、ほとんどが風景に関するものである。
⇒将来像をイメージするのに、体験的なものと景観的なものに分けて議論を行う。

【感想・気づいたこと】
○上流部分での思い出が多い理由は、砂浜があり、水が流れており、川の原形（本来の姿）があった。それゆえに、子どもでも川に近づきやすかった。魚つかみができて、川の中に入って容易に遊ぶことができ、川での体験が豊かにあった。
それに対して、河口部は砂浜もなく、川幅も広く、両側にヨシが生えていた、魚釣りぐらいは出来たが、見る景色が良かった。現在もそうである。

○昔は、とにかく水がきれいだった。それゆえに、川で遊ぶことができ、いろんな体験が出来た。現在のような状況では、だれも遊ぶことができない。
○昔のきれいな水を記憶しているのではなく、水に手足を入れたり、泳いでいる魚をつかんだり、それに自分が関わったことが思い出深い。
○恐かった思い出があまり出ていない。⇒台風はとにかく恐かった。
○上流部に浅瀬があって、遊べるところがたくさんあった。川に行くのが日課だった。今は、浅瀬がなくなってしまった。
○上流部は子どもだけでも遊びにいくことができた。河口部は危険なので、子どもだけで遊びに行くことができなかった。

【体験について】
○大川をこれから改善していくには、体験がキーワード。単に景色を良くするだけでは、だめである。
○水質の問題は川底にヘドロが貯まっているのが問題。それを除去すれば、ましになるのではないか。
○ずっと川に入っていたが、ヘドロが貯まってきたのは、ここ５年ぐらいの話で、特にひどくなったのは、ここ３、４年である。それまでは、川底が見えて、砂地だった。
○大川のヘドロを調査した結果。有機物 17%で多いので、ホテイアオイの影響出ているのではないか。
○ホテイアオイを除去して、今後どう変化していくのかを観察する必要がある。
○いろんな体験が出来た要因は、澄んだ水や砂浜があり、遊ぶ相手（魚）がいた。大人も子ども魚を捕まえることが出来て、捕まえた魚はそのまま食べることができた。魚の存在は重要。

【景観について】
○堤防の両側が竹やぶで、トンネルが出来ていた。
○昭和 45 年頃まで、ヨシは青年団が刈り取って売ることができた。
○昔は牛を飼っていたため、家庭ごとに場所を決めて、土手の草を刈りとって、牛の餌にしていた。

【まとめ】
○体験の部分は方向性が定まってきたが、景観づくりをどうしていくのか、見つめていく必要がある。昔の景観に関する話題が少なかった。再度、景観に絞って議論をする。
○ヘドロをきちんととれば、水質そのものは戻っていく可能性が高い。
○上流部は、景観機能よりも、先ずはどう水に近づけるか、どう戯れられるような環境をつくっていくのかが重要。そこから下流部分についての景観機能は自由に議論できる。河口部分までの景観は一色ではなく、いくつかのエリアに分けて議論することもできるのではないか。

【上流部の目指すべき姿】　※グループ討論
Ａグループ：高野氏、永井氏、苗村氏、山中氏、伊藤氏
・ケモノ道からすぐ下流に、せせらぎをつくる。（川幅１ｍ、水深 30 ㎝程度）砂を敷き詰めて、小魚が泳ぐような河道整備を行う。

・元ホタル飼育地の公園化。右岸に桜の木を植えて、グランドを桜で囲む。

Ｂグループ：林氏、永尾氏、馬渕氏、戸田氏、寺田氏

・川幅を狭くして、川底を上げる。人が素足で入れるぐらいの砂地とする。ただし、現在は沼のようなヘドロ状態（１ｍ程度）。先ず、それを取らないとダメ。

Ｃグループ：山田(美)氏、山田(章)氏、加藤氏、山田(好)氏

・砂地にする。川を浅く、狭くする。狭くすることで流れが出来る。そこに、生き物（魚と水生植物）を植えて、Ｓ字型に整備する。川の両側を歩けるようにする。

【水質調査結果】　※立命館

・今年、窒素とリンの数値減っている。ＣＯＤは依然として高い。
　⇒水草除去に取組んできた成果？

【総括】

・大川の将来の姿の議論まで入り込むことが出来て、楽しむことが出来た、また落ち着くところが見えてきた。こういう作業をあと１、２回実施することで、大川の将来の絵を描くことができるのではと期待している。次回も引き続き議論を行いたいので、よろしくお願いしたい。

【件名】　大川活用プロジェクト８月定例会議『美崎寄り合い』

１　日　時　平成 24 年８月 24 日(金)　17 時 00 分～20 時 30 分
２　場　所　大川（現場）および美崎自治会会館
３　参加者　　計 20 名
(1)美崎自治会　伊藤自治会長、永井氏、田中氏、苗村氏、高野氏、永尾氏、馬渕氏、
山田(章)氏、山田(好)氏、山田(美)氏、山田(貴)氏、林氏、前田氏、
(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
(3)立命館守山中学校・高等学校ＳＳＨ推進機構　八木氏
(4)オブザーバー　中村一雄氏
(5)守山市
・環境生活部　原田次長
・都市経済部建設管理課　井口係長
・政策調整部みらい政策課　木村課長、髙田
４　概　要
【大川の主要スポットにおいて現場を見ながら意見交換】
Ａ：最上流（地球市民の森のすぐ下流）　ケモノ道
・地球市民の森部分については、県が次年度整備を予定している。近いうちに整備計画（案）が地元に提示される予定である。
・元の川の状態に戻すことは不可能である
・水生植物を残し、遊歩道を整備すれば子どもたちの環境学習の場にできるのでは。
・市街地にはいないトンボ（チョウトンボ、ギンヤンマ）がたくさんいる。水域を残せば、チョウトンボは育つ。トンボの里や観察園的なものにする方法もある。
・せせらぎをつくって、水遊びが出来るようにしたい。
Ｂ：グランド付近
・ガマが生えている。
・樹木アカメガシワは不要である。
・絶滅危惧種であるタコノアシがたくさんあり、貴重である。
・特定外来生物であるオオフサモは除去する必要あり。
・コシアキトンボがいる。
・川幅は現状の１／３程度で良い。砂を敷く。
・管理方法を見据えたうえで、整備していく必要がある。
・傾斜をなだらかして、容易に出入りができるよう整備すべき。（全ての区域でなくて良いので）
Ｃ：中流部（竹やぶ）
・センダンの木は保存すべきである。５月には花がきれい咲き、冬には金色の実が実る。
・昔は砂地であり、深かった。舟を浮かべて魚釣りをしていた。
・散歩ができる遊歩道を整備してはどうか
・センダン以外の木は全部切ってしまっても良い。
・フサジュンサイ（止水を好む）は退治した方が良い。食べられない。スイレンの仲間。
Ｄ：河口部
・10 年前はミクリが、今はカサスゲ　貴重種が群生している。

・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）がいる。
・子どもたちが見られるような環境を保持して欲しい。
・湖岸道路からの景観を意識すべきである。
・ヨシ群落の保存にも着目すべきである。

【自治会館】

(1) 伊藤自治会長あいさつ

・本日の趣旨は現地を見たうえで、これからの大川の整備をどうするのかを議論していただきたい。

・先般、滋賀県の担当課より説明があり、平成 25 年度から地球市民の森（ふるさとゾーン）の整備に入るとのこと。

〔整備の基本方針〕

県道今浜水保線から下手（美崎側）　園地整備を中心に　※人家に近いため
県道今浜水保線から上手（今浜側）　管理センターまでの間は現況を残す

・早ければ次回の寄り合いまでに、県のイメージ図（素案）をもらえるので、素案について地元で議論を行い、地元の意見を踏まえ修正を検討いただけるようお願いをし、了承をいただいている

(2) 意見交換

・農業者等の地域にしっかりと根をおろしている人が、一番地域のことを考えてくれていると思う。まちづくり、地域づくりには不可欠な存在である。
・地域の活性化には、世代を超えて人が集まり、話（ワイワイ、ガヤガヤ）が出来る場が不可欠である。美崎においても、そういった場は必要である。
・農業景観（田・畑）と大川は一体である。農業景観は今後も欠かすことができない資源である。
・視察へ行った「河辺いきものの森」がやっていたように、みんなが集まって議論ができる場があれば良い知恵が生まれ、一体感ができる。美崎でも出来れば良いのだが。活動を継続させていくためには、そういった場も必要と考える。
・ある程度のところは現状（自然）のまま残すのも選択肢のひとつになると思う。ポイントを絞って、部分的に手を入れて整備を行い、窓をあけて見えるようにしていくのも良いと思う。
・貴重なものを保護していても、外から見えないと意味がないので、観察できる環境が必要である。
・維持管理は最低限ですむように整備をすべきである。（自治会で管理ができる程度）そうでないと、長続きはせず、次世代に引きつぐこともできない。
・これまでの議論で出てきたアイデアを活かしつつ、これから大川の話が地域の外へ出ていく際に大切なことは、それが政策として魅力があるのか、また優位性が高いのかどうかといった視点でどうかということ。そういったことが、次の論点になってくる。その際にどういった提案ができるのかといった点を踏まえ、整理していく必要がある。
・具体的な事例として、貴重な植物があり、昆虫もいる、様々な自然環境がある「オープンミュージアム」としての整備が考えられる。（環境省）
・市との連携としては、市が推進している「すこやかまちづくりプラン」を意識し、ウォーキングロードの整備や川の中にカヤックを浮かべるといったこともアイデアの一つとして考えられる。
・国土交通省の事業を活用するのであれば、全国に同じように管理をもてあましている

事例が多くあるなかで、河川とまちづくりを結びつける、準用河川の整備のモデルケースとして提案すれば可能性がある。その際に、河川を中心にして居心地の良い空間をつくるのかがテーマになる。

・議論を重ねた結果、ポイントがはっきりしてきたと思われる。全てを整備することができないなか、残すべきものは残し、必要なところには、手を入れる。そんななかで、先ほど話があった窓方式は、斬新な手法で非常に魅力的である。特徴は、低コストで整備できることと、住民参加での維持管理が可能であり、方法論としても有効である。
・今後は、美崎公園との連携についても考えていく必要がある。
・ヨシの保存についてもひとつの売りにすることができないかを検討すべきである。
・世代を超えて、いろんな世代の人が集まって話で出来る場所にしたい。
・大川には見るべき資源がたくさんある。それを活かした整備を進めるべきである。

(3)大川水質調査結果の報告（市環境政策課より）

・別添のとおり

【件名】　大川活用プロジェクト９月定例会議『美崎寄り合い』

１　日　時　平成 24 年９月 25 日(火)　19 時 00 分～21 時 00 分
２　場　所　美崎自治会会館
３　参加者
　(1)美崎自治会　伊藤自治会長他
　(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
　(3)守山市
　　・環境生活部　環境政策課　筈井参事
　　・政策調整部みらい政策課　木村課長、髙田
４　概　要
　(1) 大川の整備構想について
　○伊藤自治会長よりこれまでの議論を踏まえ、取りまとめたものをたたき台として提示がり、別添資料に基づき説明。
　○大川を３つのゾーンに分けて考える。整備イメージをはっきりさせる。
　　Ａ：再生大川ゾーン（大川橋から上流）
　　・地域の人たちに最も身近な場所である。
　　・県道今浜水保線が整備された。（幅員が広い道路）⇒琵琶湖と地球市民の森を繋ぐサイクリングロードの整備
　　・県から整備（案）が出てきた地球市民の森（ふるさとゾーン）との連携
　　Ｂ：回廊ゾーン
　　・あまり整備イメージが具体的に湧いてこない。河口部と再生大川ゾーンとを結ぶ回廊として位置づけ
　　・遊歩道の整備や沿道の修景（竹藪の整備や桜並木の整備等）
　　Ｃ：里川ゾーン（河口部）
　　・琵琶湖と比良山の見える滋賀県を代表する景観地。大川の水景。
　　※別途オープンミュージアムゾーン、花と緑のサイクリングロードを設定
　＜意見交換＞
　・大川だけでなく、周辺部を含めた全体のイメージづくりが必要。
　・農地部分を里地ゾーンと名付けてはどうか。里川・里地が出てきて良いのではないか。
　・畑や集落を含めてオープンミュージアムゾーンとすべきではないか。
　　⇒オープンミュージアムのエリアを拡大する。（大川の３つのゾーンを全て含める。）
　・他に全体課題として、水交換の問題、水資源機構の水位調節施設の撤去、再生大川ゾーンの都市公園化。（準用河川を廃止？）
　・将来的には、美崎公園とどう連携していくのかといったことを考えていく必要がある。今後、美崎公園のスタッフにも協議に参加してもらい、将来を見越した議論ができれば良い。
　・昔あった「やな」の再現。遊びの要素が必要、投網や釣りのが出来ると良い。他の地域との差別化は必要。
　・里地の空間を上手く活用していく必要がある。
　・オープンミュージアム、文化や歴史的要素を加えるとおもしろい。例えば、美崎には「お満燈籠」伝説がある。

・竹藪をどうしていくのか？元々水害対策のため、竹を植えた。今となっては、必要がなくなり、誰も手入れをしない。
・県の地球市民の森（ふるさとゾーン）整備の今後スケジュールは？
⇒平成 24 年度中に設計を固めて、平成 25 年度に工事を予定。先ず、藪の撤去から着手を予定。
・小魚が住めるような環境を再生することは可能なのか？
⇒非常にハードルは高いのではないか。
・子どもの環境学習を中心にするのであれば、ゾーンニングをした時に、各ゾーンの目玉が必要である。
・美崎にある農耕地があり、昔ながらの集落があるといった風景（雰囲気）は貴重であり、大切にしていくべきである。
・ゾーンニングの考え方、関係者間での合意形成ができるのか。今後どのように作業を進めていくのか。⇒考え方については、概ね了解
・大川に比べて優先順位は低いが、新川の湿地帯も一つのエリアとして考えられないか。

(2) 大川フォーラムについて
・当初予定していた 11 月 4 日開催、もう少し議論する時間が必要でありスケジュール的に少し厳しいのではないか。
⇒日程の延期については別途協議を行い、検討する。
・自治会以外からも人が呼べるようにＰＲしていく必要がある。
・写真や図面等を駆使して、全体のイメージを提示する。

(3) その他
・大川の水草除去作業　10/28(日)に実施

【件名】　大川活用プロジェクト『美崎寄り合い』実務者協議

1　日　時　平成24年10月16日(火)　19時00分～21時00分
2　場　所　美崎自治会会館
3　参加者
(1)美崎自治会　伊藤自治会長他
(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
(3)守山市
・環境生活部環境政策課　筈井課長
・都市経済部建設管理課　井口係長
・政策調整部みらい政策課　木村課長、髙田
4　概　要
(1)今後のスケジュールの確認　　※伊藤自治会長より資料に基づき説明
○美崎自治会とラフォーレの支配人との意見交換を計画。北部地域の活性化を図るうえで、ラフォーレ琵琶湖の存在は大きく、自治会にとっても重要な存在。
○進め方としては、11月中に構想（案）取りまとめ⇒12月大川委員会で議論⇒1/19大川フォーラムで構想（案）の意見交換
○11月寄り合い　11/27（火）⇒11/28（水）。12月寄り合い　12/18（火）

(2)具体的な整備構想について
○今後は、ゾーン毎の整備方針に基づき、具体的な整備構想について議論し、詰めていく必要がある。
○11月中に具体の整備構想（案）を取りまとめ、12月中にイメージ図を作成。（プロの手を借りて）１月にフォーラムを開催し、意見交換を行う。
＜意見交換等＞
・今後、美崎公園をどう活かしていくのかが課題。もっと魅力的なものにしていく必要がある。
・草津市では、環境学習（烏丸半島？）を目的に全国から多くの修学旅行生が訪れている。草津市が環境教育のメッカになっているらしい。守山市においても、そういった視点を取り入れても良いのかもしれない。
・整備のコンセプトとする「オープンミュージアム」については、中身がまだはっきりしていないため、合意形成に至っていない、今後中身を詰めた議論が必要である。
・「オープンミュージアム」の他の事例において（京都美山町）、自分たちの生活を見せ、外から人を呼び込むことに対して、地元住民から大きな反発があった。地元住民の合意を早い時期に取っておかないと、今後、方向性がブレてしまう可能性がある。
・戦略的な意味合いを考えても、国や県の補助金を活用しようと思えば、外から人を呼び込むことができ、社会的にも期待されるものが構想に求められる。
・ゾーン毎にメリハリ（性格が変わっても良い）をつけることも、ひとつの手法として考えられる。「再生大川ゾーン」や「回廊ゾーン」は地元中心、「里川ゾーン」は外向けといったようにしても良い。
・基本的には、地元住民が誇りを持てるような（自分たちが自分たちを確認できるような）まちづくり空間を形成していくが大切である。

・エリア内にある四季折々の風景等（比良山と菜の花等）を活かして、撮影ポイントを設定する。大川沿いに菜の花を植えてもきれいである。
・ラフォーレの宿泊客向けに散策コースがあれば、ニーズがあるのではないか。
・オープンミュージアムであるため学芸員が必要。地元から農業や漁業に関する学芸員として参画してもらえると良い。
・この地域におけるキーワードの一つは「農業」である。農業体験等は取り入れるべき。ラフォーレでも宿泊客向けに実施している。
・65 歳から 75 歳ぐらいの人材がキーパーソンである。この人たちが頑張れば、地域が盛り上がる。
・整備後の運営については、完全なボランティアで運営するのは難しい。持続可能な取組にしていくためにも、有償ボランティアでお願いするのが現実的である。環境学習会の実施時に参加負担金等を取ることも可能。
・農家宿泊については、今やどこの農家も現代的であり、受入は困難。ラフォーレとタイアップして、農業体験としてやるのが良いのでは。⇒了
・四季を通じて演出できものがあると良い。（冬はどうしても少ない）
⇒バードウォッチング（カモが来ている）が出来る。
・現在も取り組んでいる水質改善のための実証実験は継続する必要がある。経年でデータを取って、しっかりと蓄積していく必要がある。（10 年以上）
・再生大川ゾーンに「タコノアシ植生（希少種）」とあるが、この場所は、砂浜をつくり川幅を狭くして、子どもたちが川べりで水遊びをできる場として整備していきたい。川を中心とした整備を検討すべきで、あり、植生に関しては、自治会館から下流または新川において確保していけばよい。
⇒優先順位を考えて、方向性を決定する。
・地元が良い思えるスポットが、外から見ても評価が高いものである。

※次回以降は、今回提示した「大川オープンミュージアム構想」案をたたき台とし、各自持ち帰りいただき、アイデアを出し合ってもらう。ゾーン毎（周辺部を含め）に詰めた議論を行い、構想として取りまとめる。次回（10/23）は、再生大川ゾーンについて議論する。

(3) 大川フォーラム（オープンミュージアムの研究者）の講師について
第１候補　滋賀県立大学　野間准教授（日本エコミュージアム研究会　理事）
第２候補　滋賀県立大学　仁連副学長
⇒第１候補の野間先生との交渉ＯＫ

(4) その他
・次回から美崎公園（オープンミュージアムの拠点）の中村指導員に寄り合いに参加いただくことは可能か。情報を共有するためにも、参加の方向で調整を行う。

【件名】　大川活用プロジェクト10月定例会議『美崎寄り合い』

1　日　時　平成24年10月23日(火)　19時00分～21時00分
2　場　所　美崎自治会会館
3　参加者　計17名
(1)美崎自治会　伊藤自治会長、高野氏、永井氏、苗村氏、馬渕氏、山田(章)氏、山田(好)氏、戸田氏、山田(美)氏
(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
(3)立命館守山中学校・高等学校ＳＳＨ推進機構　八木氏
(4)守山市
・環境生活部環境政策課　筈井課長、井上主任
・都市経済部建設管理課　井口係長、美崎公園　中村指導員
・政策調整部みらい政策課　木村課長、髙田
4　会議概要
(1)「再生大川ゾーン」の整備について
○参加者に具体的な整備アイデアを出してもらう。
＜意見等＞
・名称は「水遊びゾーン」とする。
・右岸は砂を入れて砂浜として整備し、左岸は「タコノアシ」や「柳の木」を残す。
・土手には美崎の木を決めて植える。(桜では脳がない)
・開拓当時の東屋を２箇所復元する。(一つは休憩用、もう一つは農具を入れて展示用)
・子どもたちが水遊びできる広場的機能とせせらぎを整備する。
・現在、荒地（雑草地）になっている右岸（大きなスペースがある）に憩いの場（ピクニックゾーン）を整備。サイクリングロードが整備されると、季節の良い時期には多くの人が訪れるので、休憩場所としても利用でき、また、一帯を散策する人や地域においても利活用が可能である。
・左岸と右岸を繋ぐ木の橋をかける。昔の大川橋（バタバタ橋）を再現する。
・右岸に桜並木を整備。グランドを桜の木で囲んでもおもしろい。
・（きれいな水を流すことを前提に）水路は浚渫をして砂を入れる。
・きれいなせせらぎが出来れば、外来魚が入らないよう仕切りをして、在来の大川の魚を放流し、「やな」をつくるなど、昔の河川漁業（ミニチュア）を再現する。
・グランドに大きな木（シンボルツリー）を植えて、木陰で休めるように。
・美崎の木をつくって植えればどうか。ムクロジの木はどうか、非常に貴重である。
・地域では、果物の木を植えてはどうかといった意見もあった。管理が大変であるが。
・以前にやっていた、ホタルの飼育をしてみてはどうか。
⇒一度失敗している。地下水を汲み上げていたが、金気の問題があった。環境的に難しいかもしれない。
・河辺いきものの森のように、(今後のまちづくり等について話をする）地域の語らいの場のようなものが整備する。
・水辺と広場（広い空間）が共存している貴重なゾーンである。
・ビオトープ的なものをつくる。
・小水力発電（エネルギーに関する環境学習）の実践。

・川には、降りられるように段々をつくる。
・両サイドの平地部分は歩けるようにコンクリートで固め、傾斜部分は芝生を植える。
・広い部分は砂地にする。
・既設の高木は保存し、芝生で固めて、下に降りられるようにする。
・竹の木が生えているところは、全て抜き平地にして、アスファルトにし、駐車ができるようにする。
・照明等の電気は太陽光発電を活用する。
・いろんな種類の果樹の木を植える。
・川の水深は50cm程度が望ましい。子どもが入っても安全であり、魚が子どもに追い込まれることがあっても逃げ切ることが可能。
・たくさん手をかけることよりも、子どもたちの生活の一部になるような大川の再生。
・現状は藪のようになっているため入れない、子どもが入りやすい環境をつくる。
・見通しの良くなる場所をつくってあげると子どもが入りやすい。
・大きな木（エノキやクスノキ）を間隔を空けて植えることで、そこが休憩場所になり、人が集まる、憩いの場所になる。
⇒人が集まるとトイレが必要になる。
・川や砂浜の他、既存の植物（ガマ等）を残すスペースを所々に設ける。
＜整備のコンセプト（求められるもの）＞
①川としての原風景の再現（砂浜、せせらぎ）
②特に子どもたちが、水に触れ、生き物に触れ、体験できる場面の提供
③北部地域の交流の拠点（外から人がやって来て、ここでひと休みし、地域を感じる）
※ラフォーレを含む湖岸や美崎公園、地球市民の森などは、既に拠点として社会的評価を受けている、そういった拠点をつなぐ接点の一つである。

○今日出たアイデア等をベースに、簡単なイラストを作成する。
※現在、県に対し地球市民の森（ふるさとゾーン）についても、大川と同じようなイメージ（砂浜や川原）のものを整備するよう要望を行っている。その結果次第では、すぐ隣に同じようなものは必要なくなるのかもしれない。（再検討を要する可能あり）
県の回答については年内中が目処。
○次回は「回廊ゾーン」および「里川ゾーン」について議論を行う。
※11/13（火）19：00～

【件名】　大川活用プロジェクト 11 月定例会議①『美崎寄り合い』

1　日　時　平成 24 年 11 月 13 日(水)　19 時 00 分～21 時 00 分
2　場　所　美崎自治会会館
3　参加者　※伊藤自治会長、安藤先生は欠席
(1)美崎自治会関係者
(2)立命館守山中学校・高等学校ＳＳＨ推進機構　八木氏
(3)守山市
・環境生活部環境政策課　筈井課長
・都市経済部建設管理課　井口係長、美崎公園　中村指導員
・政策調整部みらい政策課　木村課長、髙田
4　会議概要
(1)大川の整備構想（案）について
○大川再生ゾーン（上流部）のイメージの確認
・前回出していただいた意見をもとにイメージ図（ポンチ絵）を提示し、整備の方向性を確認した。
・コンセプトは、子どもが川で遊ぶことが出来、水辺環境の学習の場や人が集える場としての整備。
＜主な意見等＞※別途図面に整理
・河川区域内に東屋等の構造物をつくることは可能なのか？
⇒本来的には難しいが、準用河川（管理者：市）なので、弾力的な取り扱いは可能
・地球市民の森（ふるさとゾーン）の整備計画との整合は？
⇒当初の素案に対して、美崎自治会の要望については、速野学区の要望として滋賀県に上がっている。これについては、後日回答がある予定であるが、県の設計等の進捗を見極めながら、一定整合は図っていけると考えている。

○回廊ゾーンおよび大川河口部ゾーンの整備に関する意見（アイデア）収集
＜主な意見等＞　※別途図面のとおり
・以前（15 年前頃）に繁茂していた水草（カナダモ）対策のために草魚を放した時に琵琶湖へ逃げないように（繁殖しないように）設置された河口部の柵を、問題なければ、邪魔になっているので撤去して欲しい。
⇒撤去する方向で検討したい。
（撤去するには、ヘドロでかなり埋まっているため、重機等が必要）
・環境学習を目的とした遊歩道の設置。ところどころに川が観察できる桟橋のような、突き出したスペースを確保。
・六番付近の竹藪部分の手入れを行う。（民地部分あり。）
・景観づくりのため、田舟や屋形船を浮かべる。イベントでの利用も可能。
⇒田舟は自治会で保有しているものの、維持管理がかなり大変である。
・浮き桟橋を設置し、カヌー（玉津小学校で保有）の発着場にする。
・河口部でも水質浄化の実証実験。空芯菜の栽培ゾーンを拡大。地域資源として売り出す。（河川占用行為）
・桜並木を拡大し、カヌーにより水辺から観察できる。

・稀少種を保全しつつ、景観づくりのため河川敷に菜の花やコスモスを植える。
・左義長等の地域行事で竹を利用するため、竹林は管理できる範囲で一部保全する。
・みさき公園の有効活用。（地元でもあまり知られていない。大川フォーラム等での活用も検討）
・最河口部は、大川から琵琶湖へ排水ができる通水幅の確保。
・ヨシ刈りをイベント的に開催。（現在、湖岸振興会で年１回実施している）
・バードウォッチングの実施（水鳥の休息地）

【件名】　大川活用プロジェクト11月定例会議②『美崎寄り合い』

1　日　時　平成24年11月28日(水)　19時00分～21時30分
2　場　所　美崎自治会会館
3　参加者
(1)美崎自治会　伊藤自治会長他
(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
(3)立命館守山中学校・高等学校ＳＳＨ推進機構　八木氏
(4)守山市
・環境生活部環境政策課　筈井課長
・都市経済部建設管理課　井口係長、美崎公園　中村指導員
・政策調整部みらい政策課　木村課長、髙田
4　会議概要
(1)大川の整備構想（案）について
○回廊ゾーンおよび大川河口部ゾーンの整備に関する意見集約図の提示
・前回の会議において回廊ゾーン（中流部）および大川河口部ゾーン（下流部）の整備について意見交換を行う。出された意見を図面に整理したものを提示し、再度確認を行い、イメージを共有した。
○大川再生ゾーン（上流部）のイメージ図の再確認
・前回提示した大川再生ゾーン（上流部）のイメージ図を再度提示し、関係者でイメージを共有。方向性としては、子ども達が水と触れ合える場として整備していくことを確認した。
○大川整備構想（キーワードの整理）について
・伊藤自治会長から別添資料に基づき説明
＜主な意見等＞
・利用者（年代層）の視点に立って、最終的な整備計画を取りまとめいく必要がある。
・ラフォーレ琵琶湖の利用者をどう取り込んでいくのかがポイント。
・ターゲットは子どもを中心に環境学習としての利用、地域の憩いの場（地域財産としての位置づけ）としての利用が大きな柱になるだろう。
・環境学習での利用がメインとなるのであれば、学校授業等で活用いただけるよう、年間を通してメニューを取り揃えておく必要がある。
・整備構想を検討していくうえで、昔の大川の姿を知っている住民と当時を知らない住民にイメージに、多少ズレがあるのではないか。回廊ゾーンについては、中々イメージがはっきりせず、具体的なイメージに乏しいのではないか。
・河口部ゾーンや再生ゾーンと違い、回廊ゾーンについては、まさに生活空間の場であるため、「環境は良くなって欲しい、きれいな空間になって欲しい」といった声はあっても、外から人が入ってくることを望んでいないのではないか。現状維持が基本線である。
・オープンミュージアムの整備であれば、地域住民の利用を含め、外からも人を呼び込み、見てもらえるようにしてもらえる必要があるのではないか。
⇒中流部は、オープンミュージアムの区域には入っていない。集落の中にまで、人が入ってくることは、住民は望んでいないと思われる。

・美崎公園の機能、新川の湿地帯、大川の河川環境、ハマヒルガオの群生地、ヨシ帯といった資源がたくさんあり、オープンミュージアムとしての魅力は十分にあると考えられる。
・オープンミュージアムを切り口に、地域資源を活かして、地域振興や観光振興を進めて、外部の人に開放していくについては、賛同は得られると思う。しかしながら、生活空間の場に、外からどんどん人が入ってくるような整備を進めていくことについては、住民の同意が得られない。今後、構想を取りまとめていくにあたっては、大変デリケートな問題であり、ゾーンの設定等しっかりと一線を引いて、注意を払う必要がある。
・今後（整備後）の地域住民の関わり方について、関心を持っているのではないか。
⇒一つ検討しているのは、美崎公園と連携のもと、ミュージアムボランティアに登録してもらい、環境学習や自然体験をサポートするといったことをイメージしている。
　また、今後の計画推進および大川をどう管理をしていくのかについて、地元を中心に推進組織を立ち上げ議論をしていく必要があることは認識している。これまで、地元において水草除去等に汗を流してきた実績もある。
・今まで以上に地域住民をいかに巻き込んでいくかが今後の課題である。美崎地区の地域性として、協力的な人が多いので、理解を得ながら進めていく必要がある。
・整備にあたり、国庫補助事業の活用等を視野に入れて進めていく必要があるが、現時点で何か予定しているものはあるのか？
⇒特になし
・整備構想については、水が流れることが大前提になっている。今となっては、水の確保は絶対条件になってくる。
・滋賀県が平成25年度から地球市民の森（ふるさとゾーン）の整備に着手されることは、地元にとっても大変ありがたい話である。

(2)大川フォーラム（H25.1.19）について
【当日の内容および資料整理について】
①大川の整備構想（案）について
・本日の自治会長提示資料をベースにしたもの（更に肉付けしたもの）およびイメージ図
②美崎寄り合いの議論経過
・これまでの議事録中心に
③水質調査の結果について（分析含む）
④美崎自治会の取組経過
・水草除去や植生浄化、子どもの環境学習など
＜主な意見等＞
・オープンミュージアムの解説をしてもらうため、外部講師（専門家）を呼んで講演をいただく予定であったが、内容的にも時間的（2時間から2.5時間）にも、①～④だけでもかなりの時間を要し、意見交換の時間も確保する必要があるため、外部講師を呼んで講演いただく時間を確保することは難しいのではないか。
⇒再検討する。（結果、講師として予定していた阪南大学吉兼教授に断りを入れて、当日、以前活動に参加していた大西先生に参加いただき、必要に応じて簡単に解説をお願いする方向で調整を行う。）

【現時点での具体的なプログラム（案）】
①伊藤自治会長あいさつ
②活動報告
・美崎自治会の取組について
・立命館守山の環境調査結果について
・美崎寄り合いの議論経過
③大川整備構想（素案）の発表
＜休憩＞
※休憩中にアンケート形式により参加者から意見をもらう。出された意見（質問）内容を中心に、次のパネルディスカッションにおいて議論を行う。意見（質問）を出してもらった人にパネルディスカッションの場において直接発表してもらう。
④パネルディスカッション
・コーディネーター：安藤先生
・パネラー：伊藤自治会長、宮本市長、＋α（大西先生、自治会から）
※八木先生は当日入試のため不在

(3)次回の予定（H24.12.18）
○1/19 のフォーラムに出す資料（案）の確認を行う。
【自治会】
・大川整備構想（案）＋地図（ゾーン設定）　※自治会長
・これまでの活動実績
・子どもたちの水質調査結果
【立命館守山】
・水質調査結果
・植生浄化（空芯菜）による効果検証データ
【市】
・これまでの議論の記録集等
・整備イメージ図（ゾーン毎）※可能な限り 12/18 までに
・再生大川ゾーンのイメージについては、更に整備イメージに近いもの（精度を上げたもの）が必要である。
○美崎自治会において、12/15 大川委員会を開催し、自治会としての大川整備構想（案）を報告する予定である。

【件名】　大川活用プロジェクト12月定例会議『美崎寄り合い』

1　日　時　平成24年12月18日(火)　18時00分～19時30分
2　場　所　美崎自治会会館
3　参加者
(1)美崎自治会　伊藤自治会長他
(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所　安藤氏
(3)立命館守山中学校・高等学校ＳＳＨ推進機構　八木氏
(4)守山市
・環境生活部環境政策課　筈井課長、井上主任
・政策調整部みらい政策課　木村課長、髙田
4　会議概要
(1)大川整備構想（案）について
○伊藤自治会長より別紙「大川整備構想の考え方」について説明
・概ね了承。一部訂正あり。
・「１．意義・目的」中に大川が野洲川改修の影響で環境が悪化した経過の追加
・「３．整備の内容　２）②回廊ゾーン」中の「歩道」を「散策路」に訂正
・「３．整備の内容　３）オープンミュージアムの整備」を「・・・オープンミュージアムとして位置づけ」に訂正
・「４．今後の進め方」中の「(25年度)」を削除。(具体の年度は未確定であるため、明記しない)。同じ理由で「年次計画の策定」も削除する。

○これまでの議論をベースに作成した別紙「大川整備構想イメージ図（案)」の確認
・「水辺と里中」散策路　イメージ図に集落（農地や家屋）の風景を入れる。

(2)大川フォーラムについて（H25.1.19 開催）
○伊藤自治会長より別紙「平成24年度『大川フォーラム』開催（案)」に基づき説明
・スケジュールや内容等は以下のとおりで最終決定
【開催日時】平成25年1月19日（土）　午後1時30分から午後４時まで
【場所】美崎自治会館
【内容】
開会：13時30分
第１部　活動報告：13時35分～14時20分
①大川の環境学習会（美崎子ども代表）＜10分＞
②生物相・水質調査（立命館守山中学校・高等学校　Sci-Tech ｸﾗﾌﾞ生物班）＜15分＞
③水草除去や植生浄化等美崎自治会の活動（美崎自治会代表）＜15分＞
④守山市北部地域の現状について（守山市）＜５分＞
※美崎公園の活用含めた
第２部　大川の将来構想：14時20分～14時50分
①大川の「将来構想」の発表（大川活用プロジェクト　代表　伊藤 潔）＜20分＞

②オープンミュージアムについて（大西信弘　京都学園大学准教授）
＜10 分＞

休憩：14 時 50 分～15 時 05 分

※本日発表した大川の「将来構想」に関する意見や質問等を参加者から聴取し、出された意見を中心にパネルディスカッションを行う。

第３部　パネルディスカッション：15 時 05 分～16 時 00 分

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：安藤和雄准教授（京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所）

ﾊﾟﾈﾗｰ：伊藤潔自治会長、大西信弘准教授、宮本和宏守山市長ほか

※自治会からあと１名（出来れば女性？）

(3)大川フォーラムの資料確認

○当日の配布資料としては、前半は当日の説明用、後半に資料編として「平成 24 年度版 里川里湖のまちづくり実施計画書」、「大川だより」、「寄り合いの会議録」等の編集とする。

○本日市が出した資料から当日使用するものを精選する。

○当日の資料となる立命館守山中学校・高等学校の水質調査結果は別添のとおり　概要を八木先生から説明

○１月 10 日（木）17 時 30 分～　守山市役所において関係者により、資料の最終チエックを行う。資料を集約のうえ、安藤先生にデータを渡し、フォーラム当日までに印刷を行う。

○参加者を対象としたアンケートを実施する。伊藤自治会長からアンケート（案）が提示。

・属性（性別・年代）の項目および自由意見欄を追加する。

・問２－２　「歩道の整備」⇒「散策路の整備」に訂正